

15 ZCTとケーブルシールドの接続方法

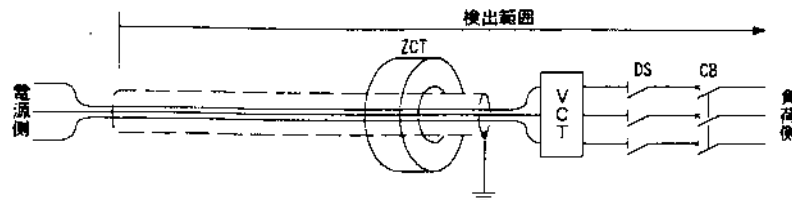
地絡継電器は、ZCTの取付場所とケーブルシールドの接続方法により、その検出範囲、検出感度が異なる。以下（日本電気協会：「高圧受電設備規程」による）

いずれの方式においても、地絡検出範囲を確認すること。

15-1 引込み用ケーブルの場合

- 1) 保安上の責任分界点に地絡継電装置付き高圧気中負荷開閉器（G付きPAS）が取り付けられていない場合、シールド接地の方法によっては、地絡事故電流を検出できない場合がある。

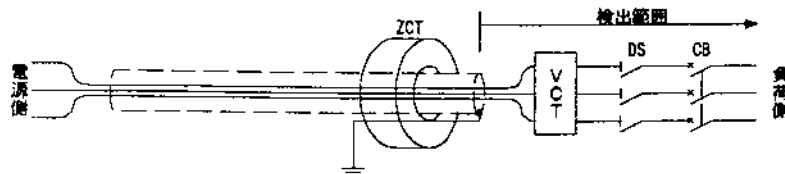
下図のようにZCTの電源側の地絡事故を検出することが可能であるため、需要家側で電源側事故の発生を確認でき事故点の判明が容易となる。



- 2) G付きPASが取り付けられている場合で、主遮断装置が先行動作した場合、G付きPASの操作電源が遺失し、G付きPASが不動作となる恐れがある。

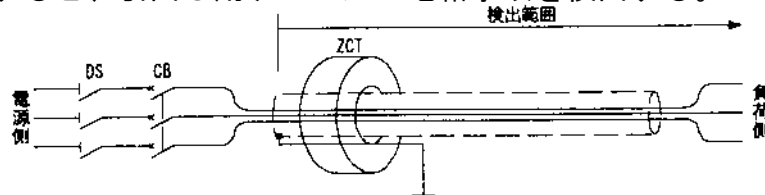
ただし、G付きPAS内に操作用電源VT内臓の場合や、主遮断装置の1次側に操作用電源VTを取付けた場合は操作電源が遺失しない。

この場合は、下図のように負荷側にシールド接地を行い、ZCTをくぐらせて接地する。



15-2 引出し用（送り用）ケーブルの場合

- 1) 下図のように電源側にシールド接地を取付け、ZCTをくぐらせて接地すると、引出し用ケーブルの地絡事故を検出する。



- 2) 下図のようにZCTの電源側でシールド接地を取付けると、引出し用ケーブルの地絡事故を検出できない。

